

2022年 7月 28日

2021年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 見てみようよ！常総市の会

代表者・役職名 氏名 染谷みどり

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

水害の記憶を未来につなぐ映像制作

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

創設の経緯:平成27年(2015年)9月の関東東北豪雨で市内を流れる鬼怒川堤防が決壊、市が水に浸かる大水害を受けた常総市において、水害の記憶を風化させず、“川とともに生きる”まちの歴史と文化を掘り下げながら、防災啓蒙を市民の手で進めていくため、結成されました。

設立時期: 2016 年 1 月

会員数: 5名

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

これまで洪水水位をステッカーを貼るツアーや復興進む街の(川=水運の恵みに彩られた)魅力を探訪するツアーなど直接的な集客を前提とする啓蒙活動に力を入れてきましたが、コロナ禍でこの手法は難しくつつあります。しかし何もやらなければ水害記憶継承活動そのものがトーンダウンしてしまいます。そこで今年度は水害(と復興)状況を語る語り部のトークを記録する映像を制作することにしました。この映像はYouTubeでも拡散することができるほか、アーカイブとして後世に水害の記憶を継承することにつながります。水害から約6年経過し語り部も高齢化が進んでおり、この機会に制作を行うことで、水害記憶継承活動そのものを継続させていく一歩とします。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

「水害の記憶を未来につなぐ映像制作」

これまで「水害の記憶をつなぐ街歩きツアーシリーズ」として水害時の洪水水位の位置(許可を得た場所)にステッカーを貼り歩くステッカーツアー等を実施してきましたが、各回の行程中には必ず“語り部”を起用し、水害当時の状況や復興におけるボランティアの活躍などを語っていただけてきました。どれもが深く胸を打つ教訓に満ちたお話の内容でしたが、イベントという枠組の中で実施してきたので、その説得力あるお話を映像記録することはできていませんでした。コロナ禍で集客イベントが難しい状況の今だからこそ、再度語り部に映像収録に協力いただき、その教訓を記録し後世に伝えていきたいと思っております。

「同 映像観賞(試写)およびふりかえりディスカッション会」

映像完成後に、当該映像の上映を、登場した語り部の方や当時の被災市民、水害を知らない新住民らも交えて行い、水害と復興をふりかえるひとときを持つこととしました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

映像記録においては市内各地の方(これまで高水位ステッカーを貼るツアーをしてきた中で語り部として登場いただいた方々)に、改めて貴重な、水害実体験者だからこそ、教訓に満ちたお話を語っていただき、それを各人の生活の舞台を背景とした映像の中で収録することができました。上映会は、街の水害痕跡発見ウォークとも組み合わせ、一般参加者をはじめ映像への出演者、また行政の方なども参加いただき(参加人数 20 名ほど)、映像観賞後の感想をシェアしあうとともに、これからの(水害の記憶を風化させない)まちづくりや、活性化のありかたなど広がりのあるでディスカッションが繰り広げられ、今後の市民の防災意識高揚と水害記憶継承に向けて、大変有意義なものとなりました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

目に見える水害の痕跡がほとんどなくなっていく中で、水害記憶の継承はなかなか難しい課題ではあります。また、水害後7年を超えて、“過去の水害(=陰)を見る”だけでは人々(市民)の関心を集め続けにくくなってきていることも確かです。今後は(これは現在も、ですが)水害という影に目を向けるだけでなく、今後の街の活性化という“光”にも目を向けた活動の中で、水害の事実のふりかえりと、防災意識の高揚を図っていくことが重要であると考えます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。



上映会の様子



上映後のでディスカッション会

2022

7/2

土

水害から6年10カ月…
街の過去と未来を見つめる

参加費無料

事前申込制

北水海道まちなか発見“千姫ウォーク” + 防災インタビュー記録映像上映 & ミニフォーラム



今年9月には関東東北豪雨水害から7年を迎えます。街中からは水害の痕跡がなくなりつつありますが、水害の危険性が無くなっているわけではありません。当会では今年も、水害の痕跡を街中に探しつつ、同時に町の面白い場所を見つける“発見ウォーク”を開催します。今回のサブテーマは大河ドラマ誘致活動も盛り上がる「千姫」。北水海道駅から千姫のお墓がある弘経寺までをケータイで写真を撮りながら歩きます。お寺では住職のお話も！

ウォーク後は北水海道の『えんがわカフェ』で、今年撮影した、水害の記憶をめぐるインタビュー記録映像作品を観賞、ミニフォーラムを行います。皆様ぜひご参加ください。

12:40 北水海道駅集合・出発

..電車の場合: 水海道方面から12:32着
下館方面から12:23着

- 12:35 北水海道駅集合/受付 開会ご挨拶
- 12:40 第一部 弘経寺に向け発見まちあるき 出発
- 13:20 弘経寺到着 千姫墓見学、御住職のお話
- 13:50 えんがわカフェに向け帰路発
- 14:30 えんがわカフェ(北水海道)着
- 14:35 ふりかえり会(参加者が撮影したケータイ写真を投影地図上にプロット)
- 15:00 第一部終了
- 15:10 第二部 水害を振り返るインタビュー映像作品上映(約30分)
- 15:40 ミニフォーラム
『私たちの街はいま…水害7年目を迎えて、そして千姫を見つめて』
- 16:20 終了



弘経寺



(内容は変更になる場合があります)

- ※集合場所の北水海道駅は改札一箇所、初めての方も迷うことはありません
- ※昼食・トイレは各自済ませてからご集合ください(北水海道駅にはトイレ無)。
- ※ウォークのふりかえり会と、それに続く水害記憶インタビュー映像作品上映を行う「えんがわカフェ」は、北水海道駅徒歩5分の場所にあります
- ※夏季のウォークのため、各自水分を十分にご持参ください
- ※雨天決行。曇天で降雨微妙な場合も、歩行中に降ってくることも考え、降りたみ傘等雨具をお持ちください。
- ※お申込みいただいた方でも当日体調が悪い場合は参加を見合わせてください。受付時に発熱がある方は参加をお断りします。



昨年7月の水海道発見ウォークのようす

災害の教訓を次世代に語り継ぎ、地域の“光”を見つめる

見てみようよ！常総市の会

事前申込
お問合せ

染谷みどり (代表)

Ouh2k6537852v2b@ezweb.ne.jp

090-1836-9444

見てみようよ！常総市の会 は、平成28年2月、その約半年前に発生した関東東北豪雨災害の教訓を未来の世代に語り継ぐために結成された市民の会です。現在は水害の記憶(影)をふりかえるだけでなく、復興進む常総市の魅力(光)にも目を向け発信していこうとしています。

このイベントは真如苑助成事業の支援を受けて実施しています